令和5年度　学校評価・学校関係者評価書

学校名	稲美町立母里小学校

1　学校運営の目標・方針

「自ら学び、こころ豊かに、たくましく生きる子ども」の育成をめざして
～　自分自身の力で、“心と体の根っこ”を深く太く張れる子に　～～

2　本年度の重点目標

1.「確かな学力」と「個性」を伸長し児童自ら学ぶ喜びと充実感が持てる学校を築く。
2.教師自らが常に学び続ける姿勢を持ち、人として美しくあることに努める。
3.教師と児童の心のふれあいを大切にし、秩序ある中でゆとりと潤いのある学校を築く。
4.地域社会や家庭が各々教育機能を発揮しつつ、連携を密にした開かれた学校を築く。

4　総合的な学校関係者評価

〇母校であり、今の子どもたちの人数に少し寂しさを抱くこともあるが、学校関係者の皆様は、非常に頑張っていると思う。引き続き、子どもたちに自主自律の精神を抱かせるような学校運営を望む。　〇“心と体の根っこ”を深く太く張れる子～イメージ化しやすい表現である　〇たくさんの体験活動や、地域の方を招いてお話を聞いたりといった交流もあり、とても充実していたと思う。子どもたちも、教科書や机の上だけで学ぶのではなく、交流や体験を通して学ぶことの方が、よく覚えているように思う。
〇子どもたちにたくさんの経験をさせるためには、たくさんの資料や時間が必要になってくると思うが、それをしてくださる先生方に感謝したい。そして、その経験から、こころ豊かにたくましい子どもの成長に繋がっていると思う。　〇満足している。インフルやコロナで学級閉鎖が続き、学校へ思うように行けない時期が続いたが、その際、担任の先生から、細やかな且つ丁寧な便りが届き、子どももわかりやすいと喜んでいた。すれ違う子どもからは、ほぼ「さようなら」「こんにちは」と挨拶をしてくれる。校外でも、その頻度が増え、しっかりしているなと感心している。

3　学校自己評価結果　A：十分達成している。（そう思う）　B：おおむね達成している。（ややそう思う）
C：どちらかというと達成されていない。（あまりそう思わない）　D：ほとんど達成されていない。（そうは思わない）

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策
学校運営	学校教育目標や学校経営方針を教育活動に反映し、日々の教育活動を学校だより・学級だより・ホームページ等で分かりやすく伝えている。	B	学校通信「くすのき」には、経営方針や教育に関する所感、行事や学習の様子などを掲載し、校区の皆様にも読んでいただいている。各学年だより・図書だより・保健室だより等も含めて、2学期後半より、文書配布アプリ『スクリュ』を活用しての配布を行っている。HPも、できる限り即時更新を心がけているが、より多くの更新を望まれる声もある。日頃の教室での学習内容や児童の様子、各担任の教育活動に対する思いも含めて、情報をきめ細かに発信することによって、「授業内容等、評価しにくい」という声に対応していきたい。
	学校行事の時期や内容は適切である。	A	新型コロナの5類移行にともない、コロナ禍での学校行事のあり方を振り返りながら、今年度の内容について検討を加えた。運動会・学習発表会・授業参観は、人数制限を撤廃して実施。PTAの要望で運動会や学習発表会では『観覧優先思いやりゾーン』を設けた。猛暑日が続く中での熱中症対策、インフルエンザや新型コロナウイルスの流行による学級閉鎖の増加など、天候や健康状態による練習日程・内容の変更や実施日の延期を余儀なくされることが多かった。引き続き、適切な実施時期や安全な方法について、検討していきたい。
	清掃が行き届いており、美化に努め、校舎内外の物が整理整頓されている。また、定期的に施設・設備の点検をしている。	B	「もくもく掃除」を合言葉に、限られた時間の中で清掃活動を行っている。児童数の減少により、学年当たりの清掃区域が広くなり、決められた時間内で、隅々まで清掃が行き届かない時もある。日課時程を見直す中で、清掃時間のあり方を検討していきたい。また、美化・生活・掲示・健康各委員会活動において、児童への啓発活動も継続していく。6年生有志が、自主的に階段の汚れを落とす作業に取り組んでくれており、低学年への良い見本になっている。月1回の安全点検日を中心に、校舎内外の設備等の点検を行い、不具合箇所については、早急に修理や部品交換をし、安全確保に努めている。
	いじめ・不登校問題等への対応は適切で、教職員が一致協力できる生徒指導体制ができている。	A	毎日の職員打合せ時や定例の生徒指導委員会において、支援の必要な児童の情報を全職員で共有している。児童の状況により、ケース会議を開催。担任だけでなく、学年、生徒指導担当、養護教諭等、教職員全体で連携しながら事実確認を行い、児童への指導と家庭への連絡を行っている。また、「困りごと(いじめ)アンケート」の分析と事後指導の経過観察、Q-Uテストの分析や、道徳の授業を通して、より良い人間関係作りに取り組んでいる。昨年に引き続き、稲美中学校スクールカウンセラーが6年生児童に「ストレスマネジメント」の授業を行い、人間関係構築の方法を伝えている。教育委員会「ふれあい教室」とも、児童の学校復帰に向けて、情報を共有し、連携を図っている。日頃より家庭との連絡を密にし、いじめ・不登校の早期発見・早期対応を心掛けている。
	危機管理マニュアルを作成し適切に運用している。登下校の安全について、点検・指導がされている。	B	危機管理マニュアルを作成し、非常時の教職員の任務を随時確認している。下校時の急な豪雨によって、お迎えの車がJAの駐車場に集まり、迷惑をかけてしまった。引き渡しにするかどうかの判断は慎重かつ早急に下さなければならないことを念頭において、今後も対応していく。登下校のトラブルでは、当該児童や周囲の児童から事実確認を行い、各家庭にも連絡し解決を図っているが、なかなか減少しない。交通事故防止や不審者対応については、各学級において継続して指導している。教職員が、日々通学路の安全確認をすることは難しいため、交通指導員、地域の見守り隊、ボランティアの方々に大変お世話になっており、感謝申し上げたい。
教育課程	授業方法を工夫・改善し、分かりやすい授業に心がけている。	B	昨年度に引き続き、「思いや考えを伝えられる子どもの育成～国語科「書くこと」を通して～」を研究主題として、授業づくりや学級経営についての研究を行った。児童は様々な内容について文章にまとめたり、タブレットで資料を作成することに、年ごとに慣れてきているが、その能力の差は大きくなってきている。「ことばの力」とともに、本校の課題である「算数」の基礎事項の定着については、低・中・高学年の各段階での習得目標を明確にした上で、学力向上策について継続して研究していく。
	評価（授業評価・学びの姿等）を通して、適切な指導をしている。	B	教師は、発言内容・振り返り・評価テスト・ノート点検などを通じて、児童の学習状況を把握し、評価基準に基づいて各学期ごとに評価をし、児童と保護者に伝えている。前学年までの学習事項の理解・定着が不十分なため、現学年の学習に支障をきたしている児童が全校的に多い。各担任は、児童の理解状況や課題について分析し、それぞれの児童に適した学習方法を本人と家庭に伝え、学習時間を確保して復習を行うよう指導している。各担任は、専科教員や授業交換による他学年の教員とも、様々な視点から児童の学習・生活状況の情報を共有し、学力向上や学級経営について検討し、実践を重ねている。
	子どもに家庭学習（宿題等）や学習準備等の習慣を身につけさせている。	B	全校で学習のきまりを統一し、学習に取り組む準備や心構えを日々指導しているが、なかなか定着には至っていない。忘れ物や課題（宿題）の未提出が多い児童には、担任から家庭に連絡し、時間をかけて対応している。学力調査質問紙の「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）」では、【よくしている】の割合が低い。また、学校の授業時間以外、普段（月～金）・土日 とも、1日当たりの家庭学習の時間が少ない。これは、昨年も同様の傾向であった。習い事やスポーツ、地域行事に参加している割合は高いため、学習に割く時間が必然的に少なくなっているとも考えられる。平日の 帰宅後や休日の時間の使い方について、家庭とも連携しながら、児童自身で考え させていく必要がある。
	体験的な学習や問題解決的な学習を積極的に取り入れている。	A	ふるさとの先輩事業（盲導犬・雅楽鑑賞）、学習ボランティア（スプーンおばさん 母里っこルーム、図書・習字ボランティアなど）、福祉体験（5年車いす・視覚障害、6年認知症サポーター）、町たんけん（2年）、健康教育（1年ヤクルト健康講座）など、児童は様々な体験的な学習を行った。また、4年は、社会科学習の関連で「エコクリーンピアはりま」「淡山疏水・東播用水博物館」を、6年は「県立考古博物館」を見学した。児童は、校外学習・自然学校・修学旅行等で実際に見聞したことと、教室での学びを結びつけ、学びの成果をタブレット端末を活用してまとめて発表した。
	道徳の授業を大切にし、内容の充実に努めている。	A	教師は、授業ごとに、児童の発言や振り返りを記録・蓄積し、児童の学習状況や成長の様子を継続的に把握することに努めている。児童には、日常生活で迷ったり悩んだりしたことが起きた時に、道徳の授業で新たに学んだことや心に深く刻まれたことを思い出して、取るべき行動、進むべき方向をじっくりと考えることが大切であることを伝えている。教師から、『あの道徳のお話と似ているね。どうしたらいいか、みんなで考えてみよう』と投げかけ、話し合う時間を確保しながら、学びの成果を確認している。
	読書活動を充実させている。	A	全学年で、「朝の読書」を行い、「スプーンおばさん」や「母里っ子ルーム」の読み聞かせボランティアや、全教師の輪番による読み聞かせの取り組みを通して、児童の読書への意欲・関心が高まってきた。家読での各家庭での読書活動の様子を『図書だより』でお知らせし、保護者から喜ばれている。今後は、町立図書館で開催されている『ビブリオバトル』への積極的な参加を目指し、校内の読書指導の計画の再検討や委員会活動の充実を基に、機運の醸成を図っていきたい。

5　評価項目ごとの学校関係者評価

学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
・HPの写真により、学校の様子がわかるのは素晴らしい。多忙の中、更新していただけることに感謝している。スクリルもすごく良い。・学校での活動がよくわかって良い。スクリルは、情報が早くわかり、予定もすぐに見ることができ便利だが、紙媒体でほしいという声も聞く（印刷の必要がある）・学校からの発信は適時性があり、努力が認められる。表現内容もよく精査されている。・HPを開くと誰でも見れるようになり、また家でも印刷できるため、便利になったと思う。・子どもたちの様子がよく分かって良いと思う。
・色々と試行錯誤を重ねられていてよかったと思う。・学習発表会では、子ども一人一人がよく見えて良かった。学年と学年の間の待ち時間が長く感じた。待ち時間に歌を歌って待つというのもあってもいいのではないか。・難しい時期にプログラムの中身を検討され、普段通り実施できていたので感心した。細やかな配慮を必要とすることも多い中、的確な判断により取り組まれたことは素晴らしい。・校内でのマスク着用が自由になってから、校内での感染症が増えたように思う。行事前などは、そういった感染対策を行うことを検討するのも良いかと思う。・感染流行のために延期した「母里小祭り」は苦渋の決断だったと思うが、たくさんのゲストに大盛況だった。
・体育館の玄関や廊下の埃が目に付く。体育館の電球が点いたり点かなかったりする。・図書室横のトイレ便器の内側が汚れていたが、最近はきれいになっている。・縦割り集団的な日常生活が、子どもの成長の中に高学年としてのあり方が、主体的な生き方として定着してきているのではないか。　・見る限りにおいては十分に清掃は行き届いているのではないかと思う。　・いつ行っても、きれいに清掃されていると思う。
・今も昔も、難しい問題である。正解はないかもしれないが、現状の対策を継続し、良い学校の環境を作ってほしい。常に起こりうる事として、職員や家族との連携を密にしておくことが必須条件である。・担任の先生だけでなく、他の学年、校長・教頭先生、保険の先生など、話ができる先生がたくさんいることで、子どもにとって、悩みなども話しやすいと思う。・隅々まで、目が行き届いていると思う。難しい学年も、芽が出始めてすぐ、早々に対応している。
・登下校での危機管理の難しさを痛感している。保護者のLINEで登下校の情報を共有しているが、子どもの気持ちがkeepできない。・地域の方が見守りで歩いてくださったり、先生方も下校指導で歩いてくださったりしているので安心である。たまに、交通指導員さんがいなかったということを、子どもたちや地位の方々から聞くことがある。・緊急時の機敏な行動・気転が職員だけでなく、周囲の大人にも求められる。用心していても問題はおこるもの。後の行動が大切。・少しの問題はあれど、よく対応していただいていると思う。
・「書く」ことは鉛筆が一番。ペーパーレスの時代と言うが、書き残すことこそ、子どもの時から身に着け躾ける必要がある。作文・日記は日常化したい。　・朝の読書を毎日5分、10分でも行うなどできれば、『言葉の力』『書くこと』『語彙力』がつくと思う。・中学への前段階で生じた差を埋めるためにはどうしたら良いか、学力を伸ばすためのための課題を引き続き模索願いたい。
・先生の授業の話がおもしろく、楽しくわかりやすいと子どもから聞いている。学習が遅れている児童については、残って勉強を教えるようなことはできないのかと思う。『地域未来塾』をすすめるのも一案。・学びに王道はない。ある意味、反復練習が習慣化した子が力をつけると考える。・担任の先生が、ここまでしていただいていることに感謝。
・我が子も家庭学習が足りていないように思う。本人がやる気を起こせるよう、家庭でも工夫してみる。・自学自習の習慣化は、各学年までの学習事項の理解・定着が不十分なため、現学年の学習に支障をきたしている児童が全校的に多い。各担任は、児童の理解状況や課題について分析し、それぞれの児童に適した学習方法を本人と家庭に伝え、学習時間を確保して復習を行うよう指導している。各担任は、専科教員や授業交換による他学年の教員とも、様々な視点から児童の学習・生活状況の情報を共有し、学力向上や学級経営について検討し、実践を重ねている。
・忙しい中、よく組み込んでいただき感謝。・たくさんの体験活動があり、外部の方や地域の方との交流をきっかけに調べ学習をし、考えたり感じたことをまとめて発表できているのが素晴らしい。・各学年ごとに、様々な体験をさせていただいて、ありがたいと思う。
・担任の先生の言葉だけでは難しいと考える。各家庭での心の伝え方も取り組む必要があるかと思う。・クラスや友だち同士でのトラブルが起きた時は、担任の先生だけでなく、いろんな先生方も入って、子どもたちと話をして下さっていて良いと思う。・自分自身、小・中の道徳授業での先生の発言を今でも覚えている。ふとした瞬間でも、記憶に残るので、道徳では、深く話し合いをして、じっくr取り組んでほしい。
・ボランティアの皆さんに感謝・5、6年生も「母里っ子ルーム」で読んでほしいという声を聞く・図書委員で、「ビブリオバトルに参加」などできたらいいのではないかと思う・素晴らしい。「自分にとって良い本」というのは見つけにくいもの。マンガであっても、ぼろぼろになるまで読み込める本を持っている子は幸せだと思う。・私たちの世代には無かった色々な取り組み。是非とも継続して、読書習慣を身に着けてもらいたい。・字を読むことはいいことなので、続けてほしい。

分野	評価項目・取り組み内容(指標)	達成状況	学校の取り組み状況・改善の方策	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
課題教育	生命の大切さ，共に生きる豊かな心の育成に努め,地域の人々との関わりを通して、実践的な力を培っている。	A	特別の教科 道徳や人権教育を中心に、全ての教育活動を通して、生命の大切さや人権尊重の心を育てている。『相手を大切にする言葉』を意識させるため、全学年で道徳や学級活動の時間に、自分たちが普段使っている言葉から『ふわふわ言葉・ちくちく言葉』を選び出し、2回アンケートを実施した。また、生活・掲示委員会の活動を通して、啓発活動を行った。成果が見られるまでには時間がかかるが、今後も継続して取り組んでいきたい。「母里小学校学校運営協議会（コミュニティースクール）」委員と児童会計画委員が話し合い、多くの地域の方に来て頂いて、楽しい時間を作りたいという願いの下、コロナ禍で休止していた『母里小祭り』を復活させた。各学年がアイデアを駆使し、手作りゲームやニュースポーツを行い、多くの方に喜んでいただけた(2月21日)。また、能登半島地震への募金活動も、児童会が中心になり取り組んでいる。	・「人づくりの場」としての取り組み、学校として共有したい内容、価値の共有ができればよいと思う。・「母里小祭り」は、６年生は大変だったかもしれないが、低学年は、その背中を見ていると思う。・児童に何をしたいかを聞いて、「地域の方に恩返し、ふれあい」を求めていることがわかった。それに応えるべく母里小祭りの開催にこぎつけることができて良かった。　・周りの保護者から「あんなすごいお祭りだとは思っていなかった。６年生すごい。」という声をたくさん聞いた。・子どもたちは良くやっていると感じた。
	環境体験学習・自然学校等で体験活動を充実させている。	A	自然学校（5年生）は、6月16日（金）～20日（火）の4泊5日で実施し、体調不良者が出ることなく無事に帰校できた。様々なプログラムを通して、自然の雄大さ、仲間との信頼や協力の大切さを学ぶことができ、その後の学校生活に活かすことができた。環境体験学習（3年生）は、JA兵庫南青壮年部の方々の協力を得て、米作り（田植え・案山子立て・稲刈り・おはぎづくり）体験を実施した。児童は、総合学習として、農業に携わる人々の苦労や感謝の心について学び、学んだことをタブレット端末を活用してまとめ、来年度体験する2年生の児童に発表することができた。	・自然に触れることは、大事なことだと思う。継続・推進を願う。・自然学校では、親と離れて生活して、いろいろなことを学んできたので良い経験になったと思う。計画される先生方は大変だと思うが、これからもいろんな学びをさせてやってほしい。　・たくさんの体験活動を通して、色々なことを学び、感じ、力強くなった子どもたちの成長を感じる。　・歩ける距離に田がある好条件、それを活かせる活動は素晴らしい。
	計画的に避難訓練等を実施している。	A	1学期に火災発生、2学期に不審者侵入を想定しての訓練を実施。1月15日に、「しあわせ運べるよう」の作詞作曲者である臼井真先生をお招きしての『防災教育講演会』を開催し、阪神淡路大震災発生時の様子や、その後の復興・復旧の取り組みについてお話しいただいた。その後、事前通告なしに、地震発生を想定しての避難訓練を行った。講演会での学びが多くの児童の心に残っていたこともあり、落ち着いて避難行動をすることができた。訓練後、各教室で自身の行動や意識をふり返らせたが、「どのように行動したら良いか迷ってしまった」「怖くて動けなかった」などの声もあり、このような訓練を通じて、自分や周りの命を助けるための方法を考えさせる機会を重ねることが重要である。防災教育の取り組みについて、随時見直しを図りながら、より良い方法を考えていきたい。	・生の体験談を聞ける学びの機会を多く作っていただいている。普段の授業だけでは感じ取れない良い機会であった。・臨場感あふれる避難訓練に感銘を受けた。・災害や事故に備えておられて安心した。
	外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成している。	B	昨年度に引き続き、「児童が英語活動を楽しみにしている」という割合が、児童・保護者とも減少している。低学年では、「英語の時間が楽しみ」という割合が多いが、学年が上がるにつれてその割合は減少している。英語専科教員とALTとともに、授業の進め方について検討しているが、英語という言語学習を通して、外国の文化・歴史・習慣・芸術・食生活などの情報にもより多く触れさせ、「もっと知りたい、もっと話したい」という意欲を育てることがより必要であると考える。	・身近な単語（言葉）が、どのような組み合わせで出来ているか等も活用し、どもたちに語学への関心を高めていただきたい。・英語は難しい、必要ないというイメージがあり、初めから苦手意識を持っているかもしれないので、楽しいことから始めるイメージで取り組むことが大切ではないか。　・引き続き、対応策を模索していただきたい。
努力目標	学校では、敬語や正しい言葉遣いができるように指導している。	A	昨年度から引き続き、①挨拶は、「相手の目を見てお辞儀をして、適切な大きさの声で」すること②挨拶は、「いつでも、どこでも、誰にでも、自分から」することを折に触れ、児童には話している。徐々にではあるが、自分から「こんにちは」「おはようございます」と言える子が増えて来ている。しかしながら、地域での挨拶ができていないという声も多い。挨拶に限らず、日常のコミュニケーションの有無も少なからず関係があるのではないかと考える。引き続き、大人と子ども、子ども同士が気軽に会話を交わせる学校の空間を作っていくことに尽力したい。	・目に見えて、よく挨拶ができるようになっている。　・朝の集合場所では、子どもたちの方から挨拶されることは少ないかもしれない。ただし、こちらから声をかけると返してくれるので、まだ大丈夫と思う。　・挨拶や言葉遣いは、学校と家庭とで指導していけたら、よりよくなるだろうと思う。　・日常会話で、十分に丁寧な言葉遣いができる子が多い。
	学校では、友だちと協力し、互いのよさや違いを認め合える学級づくりをしている。	B	教師は、日々、「母里小・学校生活のきまり」をもとに、児童がルールを守り、協力しながら安全に学校生活が送れるように指導している。しかしながら、ふざけ合いからけんかになったり、言葉の行き違いから諍いが起きたりすることが多い。また、自分に対する周囲の視線が気になり、教室に居づらいと訴える児童もいる。その都度、トラブルの原因をふり返らせ、どのような言動が必要であったのかを理解させるとともに、不安感を取り除く「ストレスマネジメント」の手法を指導し、安心して学校生活を送れるように取り組んでいる。	・「ストレスマネジメント」は、親子で学べたらいいなと思う。　・小学生の間は、少しくらいの諍いはあるものだと思っている。むしろ、小学生のうちに経験し、やり過ぎない事を学ぶ事が大事ではないかと考える。　・多感な時期であり、自分の気持ちのコントロールを調整中なので、互いの気持ちを爆発させてしまうのは当たり前。それをどう違いて、解決していくかが大切である。
	学校では、人の話をよく聞き、自分の思いを話せるように指導している。	C	相手の話をしっかりと聞き、その内容を正確に把握すること、そして、その指示に従って行動したり、自分の考えをまとめて意見を述べたりすることは、学校生活のあらゆる場面で必要不可欠な力である。しかしながら、自分が思いついたことをすぐに大きな声でしゃべったり、授業中に学習に集中できず、手遊びをしたり、隣りと話をしてしまったりする習慣を修正することが難しい状況が、各学年で見られる。各教科の学習中や、朝の会での1分間スピーチ、学級会・委員会活動・代表委員会での話し合い活動等、様々な機会を通しての指導を、今後も根気強く継続していく。	・「聞く、話す、書く」のきちんとした生活の中での位置づけ、ルール作り、話し方の評価。相互に評価し合うことで、聞くことの難しさや話し方の意味づけ、分かりやすい話し方の大切さが理解できると考える。　・社会に出ても大切なことなので、先生方には頑張って指導していってもらいたい。　・これらのことは、小学生の間（特に低学年）では、普通のことのように感じるが違うのだろうか。高学年の子たちは、しっかり出来ているように感じた。
	学校では、何にでも興味・関心を持ち、自ら学ぶ意欲を持てるよう指導している。	B	教師は、各教科の教材研究をしっかりと行い、児童一人一人が、学ぶことの面白さを実感し、自ら学びたいという意欲が持てるよう、授業を行うことが何よりの責務である。児童自らが課題を設定し、様々な情報手段を駆使して問題を解いたり、社会の動きを把握したりする経験を地道に積み重ねることが大切である。また、そのような学びの状況を家庭にも伝え、例えば、親子で図書館に行って情報を収集したり、現地を見学したりするなど、学校と家庭が相互に学びを補完しながら、児童の興味・関心を持続させることも必要と考える。	・家庭で取り組めることはなるべく実施して、学習意欲の向上を図りたい。　・教師発信ではなく、自ら学ぼうと導いていく方針はありがたい。　・先生が、授業でより詳しく、またその内容にからめて面白い話をしてくださるので、学習内容をよく覚えている。授業の話をよくしてくれる。　・子どもたちが、自らの成長のきっかけが、様々な体験の中で見つけられる子は幸せである。私たちは、その援助者であり、理解者でありたいと思う。
	学校では、運動や食育・健康教育を通して、健やかな体の育成に取り組んでいる。	A	体育学習では、自分で目標を設定し、それを達成するために、どのような練習が必要か、改善点は何かを考えさせる授業に取り組んだ。タブレットの撮影データも随時取り入れ、良い点や修正点を確認しながら、技能の向上に生かすようにした。水泳学習や運動会の練習に関しては、時期的に高温の日が続き、熱中症対策を取りながら行った。今後も、同様の状況が予想されるため、水分補給や休憩時間を確保し、児童の体調を注視しながら、学習に取り組んでいくことが重要である。保健では、体の発育・心の健康、けが・交通事故の防止、病気の予防、喫煙・飲酒・薬物乱用等を学習し、健全な心身の育成を図っている。	・気候変動が、様々な障害を生んでいる。成長期にある子どもたちにとって、丈夫な体を作ることが難しい時代である。何が必要であるかを成長と合致した内容で理解させたいものである。　・目標を決めてトライしていくことで、達成感を感じることができ、達成できなくても、あとどれくらいで達成できるか、次のステップの目標を持つことができるので良い。　・今の時代に沿った良い方法だと思う。

自己評価における特記事項

① 令和5年5月より、新型コロナウイルスが「5類感染症」に位置付けられて以降、教育活動や行事等については、保護者や地域の方々のご理解・ご協力のもと、コロナ禍以前の形式に戻せるところは戻しつつ、実施することができた。しかしながら、例年より早い時期にインフルエンザが大流行し、学級・学年閉鎖措置が続くことになった。児童の体調管理に関しては、引き続き、手洗い・換気・体調によってのマスク着用の奨励など、対応策を講じていく必要がある。　② 授業力の向上により、児童の学びへの興味関心を高め、基礎学力の定着を図ること、また、落ち着いた環境の中で、児童が安心して過ごせる学級づくりが、教員の最も大切な責務である。授業研究や教材づくり、学級経営等に関して、教職員自ら学ぶ姿勢を高め、それらに費やす時間を確保できるよう、働き方を見直していく。③ 挨拶については、『いつでも、どこでも、誰にでも、自分から』を、機会あるごとに児童に話しかけてきた結果、年々、自分からあいさつできる児童が増えてきている。引き続き家庭や地域に呼びかけ、心地よい挨拶の声が毎日聞こえる地域づくりに取り組んでいく。④ 子どもたちの学習や生活の状況について気になることがあれば、随時、担任から各ご家庭にお伝えし、正確な情報を共有した。教職員の児童理解に関する研修を行い、児童の行動や学習状況等についての分析をもとに、保護者とともに対応策を考えて行きたい。⑤今年度の『学校運営協議会（母里小コミスク）』の活動を起点とし、児童と地域がより密接な関係を築き、『子どもも大人も誰もが主人公』になれる学校・地域づくりに取り組んでいきたい。

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

① 2年間、「思いや考えを伝えられる子どもの育成～国語科「書くこと」を通して～」を研究主題として言語活動の充実と思考力・判断力・表現力の育成に取り組んだ。その成果を基に、自分の思いを言葉にして表し、相手の思いや考えを受け止めるコミュニケーションの力を育てるために、「特別活動」（主に学級活動、児童会活動）の実践研究に取り組んでいく。併せて、今年度も全国学力・学習状況調査の結果、算数の習熟度に課題があることが明らかになったため、引き続き、基礎学力の向上に取り組んでいく。
② 各学年とも、タブレット端末を使用しての学習を、各教科で取り組んできた。引き続き、有効な活用方法について、研修を重ねていく。
③ 今年度は、学校運営協議会（コミュニティースクール）委員と児童が話し合いを重ね、『母里小祭り』を3年ぶりに開催をすることができた。今後も、地域の人材と児童がアイデアを出し合い、「地域の誰もが楽しめて、日頃お世話になっている方々に感謝の気持ちを表せる機会」を作ることを目指して、取り組みを進めていきたい。